

# 「日中植林・植樹国際連帯事業」日中緑化協力林業青年代表団 参加者の感想(抜粋)

○植林に関する共通点：

両国とも政府に森林伐採計画があり、国有林、私有林問わず、伐採には事前に許可を得る必要があること。森林区域の用途は厳しく規制され、経済効率が低い等の理由で用地転用されることを防いでいる。

相違点：

日本政府の国有林の保護・管理に対する役割は規則の制定と監督に限られており、植樹や伐採など具体的な作業は完全に社会化（民間業者に委託）され、公費の節約や作業効率の向上につながっている。

○代表団に参加して印象深かったことは、以下の点である。

1. 東京、大阪は栄えた都市だがやかましさはなく、景観は美しく、環境もよい。街はとても清潔で秩序がある。
2. 森林セラピーは森の効用を保健や医療の分野で活用していくもので、その理念は広く普及させるべきであり、人々が自然に親しみ、自然を守り、森を愛する心を育み、心身の健康増進にも効果を発揮する。
3. 日本のゴミの分別回収処理を私たちも学ぶべきだ。

また、都市部の環境は清潔で、景観や街並みが素晴らしい。森ビルのような企業も環境保護を重視し、緑化率を引き上げ、市民のためにできるだけ緑地面積を増やして美しい環境の実現に力を尽くしている。環境保護の考え方とゴミ処理対策の取り組み方も素晴らしい。

森林の保護、育成、管理のシステムは成熟していて、人々は楽しみながら森林保護などの活動に参加している。森林セラピーは樹木を応用して、森のパワーで心身の健康を増進するもので、グリーンツーリズムの分野にも取り入れるべく、研究する価値がある。

また、最後まで周到に旅をご手配くださったことに感謝する。温泉体験や折り紙の見学といったプログラムで、日本の文化をまた別の角度から体験することができた。

○中国は現在、深刻な環境問題に直面している。今回日本を訪れ、異なる角度から日本を理解し、環境汚染につながる人間の活動を抑えるよう努力しているとわかった。

- ①公共交通の発展に力を入れ、自家用車の利用を減らす：道路の交通量を適切な範囲に抑え、二酸化炭素の排出量を削減し、自動車を使った外出の効率を上げる。
- ②都市建設の分野では、環境保護効果のある資材の使用やリサイクルに力を入れている。土地面積には限りがあるため、垂直方向に空間を利用することで都市部の緑化面積を引き上げている。事実、日本は大気汚染を解消し、ヒートアイランド現象の影響を軽減して成果を証明している。
- ③戦後、日本は経済発展に伴い木材需要が増加の一途をたどり、やはり深刻な森林面積の減少とさまざまな環境問題に直面した。政府と市民がたゆまぬ努力を続け、現在、森林率は70%に近づいている。これは世界平均をはるかに上回っており、日本の環境改善に大きく貢献している。

④新しい育苗・育種の技術と植樹方法を採用し、森林の植樹効率を大きく引き上げている。植樹の現場で植林を体験したが、苗木と道具が準備された状態で、1本の苗木を植えるのにたった30秒しかかからなかった。

このように日本は環境保護と植林・緑化の分野で非常に努力しており、豊かなリターンを獲得している。また、市民の環境保護の意識も高いレベルに達している。中国は深刻な環境問題のプレッシャーに直面しており、国家レベルで大規模な環境保護活動を推し進めてはいるが、改善すべき問題が依然として数多く存在する。とりわけ市民の問題意識の向上は急務であり、中国政府は公共環境の改善やエコ交通の分野で数多くの対策を講じている。公共交通機関の建設を強化し、自家用車での外出率の引き下げに努めているが、これは政府だけの問題ではない。一人一人が心をついにして、力を合わせ、共に美しい未来を作っていこう！

○この数日の活動を通して、日本の環境保護と経済発展は調和しながら実現されてきたのだと分かった。防災分野等の技術も世界の最先端をいっている。また、日本政府は都市の発展と森林の良好な循環のために強力な支援と指導を行っている。

植樹活動プログラムは、日本側の私たちへの友好の気持ちの表れを証明するものだった。植樹と同時に日本の植林技術も学ぶことができ、収穫の多い活動だった。今後も頻繁に交流し、共に歩んでいきたいと思う。

○一週間の交流活動で最も印象に残っているのは、日本の国民の環境保護意識の高さだ。日常生活におけるゴミの分別から、植樹活動への積極的な参加まで、日本人の環境に対する愛護の気持ちが見て取れた。

今後仕事をしていく上で、以下のいくつかの点において日本での経験を生かしたい。

1. 植林植樹活動への市民の積極的な参加を呼びかけること。実際に参加することで環境保護の意識は高まる。
2. 現在ある森林の育成と管理を科学的な方法で整備し、科学技術の力を生かした最も簡便な方法で森林の質と量の改善に務め、森林率を引き上げる。
3. 防災意識を向上させる。林業の仕事は、防災に結びつけて考えるようにする。